

平成17年度委託研究課題

歯科における BLS コース研修システム 構築に関する研究

仲西 修¹⁾，住友雅人²⁾，佐久間泰司³⁾，吉田和市⁴⁾，
工藤 勝⁵⁾，深山治久⁶⁾，染谷源治⁷⁾，金子 譲⁸⁾

抄 録 全ての患者が安心して、安全に歯科医院を受診することができるには、「歯科医師の BLS コース研修システム」が構築され、その研修が実行されることが非常に大切である。このシステムの目標としては以下のものを包含するものである。

①予防的処置として患者の全身状態の評価や有病者対策ができる。
②術中偶発症への対応ができる。
③患者の意識消失への対応では AHA の BLS ができる。

歯科から重篤な障害や死亡事故を追放するには「歯科医師の BLS コース研修システム」を全ての歯科医師が研修することが非常に重要である。そのためには、歯科医師会が研修システム受講の機会を積極的に歯科医師に提供し、その研修修了を証明する必要がある。

キーワード 救急蘇生，BLS コース研修，AHA，歯科医師

1. はじめに

米国心臓協会 (AHA, American Heart association) は、2000年8月にエビデンスに基づいた心肺蘇生法 (CPR: Cardio-Pulmonary Resuscitation) と救急心血管治療 (ECC: Emergency cardiovascular care) の統一指針として AHA Guideline 2000 を発表した。これにより、わが国の救急医療も急速に体制整備が始まり、AHA を中心とした講習会が各地で開催されるようになった。その結果、医師、歯科医師、看護師、救急救命士、コメディカルが救急救命活動に対して、共通の知識と技術を持つようになりつつある。

平成15年9月歯科医療の安全性と質の向上を図るために、厚生労働省は「歯科医師の救急救命研修ガイドライン」¹⁾を発表した。さらに、平成16年7月に一般市民に対しても自動対外式除細動器 (AED: Automated External Defibrillator) の使用が解禁²⁾となり、歯科医師を含めた医療関係者の救急救命活動の共通の認識とレベルアップが必要不可欠な状況となった。

このような経過のなか、大学における救急救命の教育状況も大きく変化している。個々の歯科医師にとっても歯科診療室で生じた突発事項や偶発症に対して救急現場の一員として救急救命活動への参加が要求される。そのため、AHA の主導する一次救命処置 (BLS: Basic Life Support)³⁾ の知識と技術を修得することが非常に重要なこととなっている。

そこで、歯科医師のために必要である一次救命処置としての BLS 研修システムの構築を検討したので報告する。

2. 世界の歯科医療における BLS

日本では2000年以降AHA のBLS および二次救命処

受付：2006年10月2日

¹⁾研究代表者，九州歯科大学歯科侵襲制御学分野

²⁾日本歯科大学生命歯学部附属病院総合診療科

³⁾大阪歯科大学歯科麻酔学講座

⁴⁾神奈川歯科大学麻酔科学講座

⁵⁾北海道医療大学歯学部歯科麻酔学講座

⁶⁾鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座

⁷⁾新潟大学大学院歯学研究科歯科侵襲管理学分野

⁸⁾東京歯科大学歯科麻酔学講座